科目ナンバリング	U-LAS05 20002 LJ40						
授業科目名<英訳>	文化人類学各論II Topics in Cultural Anthropology II			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授	岩谷　彩子	
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	地域・文化(各論)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	水2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

本講義では、私たちが日常的に行う想起や夢見、身ぶりといった無意識下で行われている記憶の営みを文化人類学的に考察することで、私たちが日々世界を生成／変化させている動態に立ちあうことを目指す。何かを思い出すこと、夢を見ること、何かの痕跡をなぞること、それは必ずしも既存の社会構造の反復を意味しない。他者と共有された言語や身体技法の体系に依拠しながらも、私たちは「今、ここ」にはない風景をなぞり、世界を日々創造しているのである。身ぶりや夢見で用いられる記号や象徴が社会制度を構築する側面に加えて、人間の身体感覚をともなう実践と意識下の活動が社会における記号の布置を揺るがし、自己の持続と変容を支えている側面を明らかにする。

[到達目標]

想起や夢見、日常的な身ぶりや住居空間を、人々の記憶の残存や複製、単なる欲動の表出としてではなく、時間や場所に関する感覚や情動を喚起し、諸個人の世界創出としてとらえられるようになる。

[授業計画と内容]

1. 言語と記憶
2. 想起とはなにか
3. 想起する自己
4. 個人的記憶と集合的記憶
5. 想起される場所―メモリアルから想起にあらがう空間へ
6. 想起と情動
7. 思い出さないということ―忘却とトラウマ
8. 想起と身ぶり（1）身体化された記憶
9. 想起と身ぶり（2）踊りつがれる記憶
10. 夢見と想起
11. 夢見と社会（1）―移動民社会をかたちづくる夢見
12. 夢見と社会（2）―夢見と自己変容
13. 共同体を記憶する（1）―ディアスポラの記憶と住まい
14. 共同体を記憶する（2）―ディアスポラのアート

≪期末試験≫

15. フィードバック

[履修要件]

人類学関連の講義を履修していることが望ましい。

文化人類学各論II(2)へ続く↓↓↓

文化人類学各論II(2)

[成績評価の方法・観点]

小レポートを数回、学期末レポートを実施する。
授業への参加度（20%）、小レポート（30%）、学期末レポート（50%）で評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
岩谷彩子『夢とミメーシスの人類学』（明石書店）
岩谷彩子・菅原和孝『身ぶりと記憶―〈身体の記憶〉をめぐる人類学的探究』（ナカニシヤ出版）
佐々木正人『想起のフィールド―現在のなかの過去』（新曜社）
バートレット、F.C.『想起の心理学―実験的社会的心理学における一研究』（誠信書房）
ベルグソン、アンリ『物質と記憶』（白水社）
松島恵介『記憶の持続 自己の持続』（金子書房）

[授業外学修（予習・復習）等]

講義で紹介される参考書に目を通しておくこと。
夢や想起という日常的な行為について関心をもつこと。

[その他（オフィスアワー等）]

講義内で受講生のディスカッションや実験を行うので履修制限を行う。

[主要授業科目（学部・学科名）]